

ボートホルダーは、適切な人選をし、適切な発艇が進行するようによく指導しておく。もちろん、安全確保も重要である。

## 1 ボートホルダーの役割

Role

ステイクボートに配置される「ステイクボート・ホルダー」は、日本では「ウォーターマン」と呼ばれてきたが、2015年に用語改訂で、公式には「ボートホルダー」と呼ばれることとなった。

ボートホルダーは、スタートに備えて艇尾を保持し、線審の指示に従い、その前後位置を微調整し、スタートと同時に艇を離す。通常2人が乗り込み、一人がステイクボートを係留するロープを調整して前後を調整し(特に艇種が変わるときに必要な作業である)、そしてもう一人が艇尾を保持し、その位置を微調整する。

## 2 ボートホルダーの人選, 指導, 交代計画

Instruction

### 2.1 人材(人選)

ボートホルダーは、静水時は比較的楽だが、ラフコンディションではそれなりの体力を要求され、また酷暑・寒冷へ耐える耐力も要求される。あまりに未熟な若年者は避けるべきである。泳げるかどうかを確認しておき、やむを得ず泳げない者を使う場合は、救命具を必ず「リジッド」のものとする。

また、まじめにとりくむ性格も要求される。クルーにも隣のボートホルダーとも余計なおしゃべりなどせず、スタートを前に緊張するクルーに配慮して冷静にスタートを送り出せる雰囲気が大切だ。そういう役目を説明し、良きボートホルダーを育てよう。

### 2.2 指導

初めてのボートホルダーには、事前に陸上で諸作業・注意を指導し、また本番前に、ダミー・クルーで予行演習すべきである。

- 自己と同乗者の安全管理, 落水時の対処法
- 艇の保持のしかた。(しっかり、しかし無理しない)
- スタートの合図に反応した適切な離し方
- 起こり得るミスについての注意(次項参照)
- クルーに対する言動, 心構え(前述のことを参照)

### 2.3 競漕上起こり得るボートホルダーのミスとイイク

ボートホルダーのミスとして、以下のようなこともありえる。これらの事例を事前説明し、失敗がないように指導しよう。また、ボートホルダーから異状を審判に通報する手順をつくっておく。

- スタート前に艇を離してしまった。(そのため艇が順風で流されて進み、不正スタートをとられてしまった)
- スタートがかかったのに固く保持し、離すのが遅れた(そのためバランスを崩したなど)
- ラダーを逆転して持っていた。ラダーの故障に気づいていたが何も言わなかった。(これらはクルーの自己責任も大きいですが、ボートホルダーもよく注意しておくべきである)
- スタイクボートのアンカーロープに引っかかっていた。

### 2.4 交代できるプログラム, 付帯設備

コンディションにもよるが、できれば60分毎～長くても2時間程度にとどめるようにする。また、発艇場付近に、トイレを設ける、予備要員を確保しておくなどの準備が求められる。

## 3 安全確保 - リスクと対策 -

Safety

### 3.1 暑さ, 日射 (熱中症対策, 日焼け)

最重要は、熱中症対策。事前の水分補給, 水, ミネラルウォーター等の搭載, 不足なく補給するように指示しよう(トイレをがまんする意識で摂取不足になる傾向)。また、(できるだけひさしの大きな)帽子を着用させよう。うつむきの姿勢で日陰の無い状態で長時間を過ごすので、日焼けの用心も大切だ。

### 3.2 寒さ, 風雨 (寒冷, 水濡れ対策)

防寒対策および雨対策に、防寒着やカッパなどを準備し、着用できるようにしておこう。

### 3.3 トイレ対策

事前にトイレに行くのは当然だが、特に暑い日は、水分補給も必要なため、トイレにいつでも行けるよう、申告の手順, 渡し舟の用意等をおこう。スタート付近にトイレを準備しておき、定期的・頻繁に陸上に挙げるローテーションを組もう。

### 3.4 船酔い

ラフコンディションや個人の特性で、「船酔い」のリスクもある。

### 3.5 手をはさまれる, ラダーで怪我をする [重要]

艇尾を捕まえるときには、艇とステイクボートの間に手をはさまれないように注意する。またラダーやラダーティラーなどでケガをしないように注意しよう。

※ステイクボートへの後進が速すぎ、抑えようとしたボートホルダーが手を挟まれてケガをする事例が、複数発生している(例: 2011年・相模湖, 2016年・戸田)。危険を感じたときには「手で艇を保護する必要はない」ことをボートホルダーに徹底し、また同時にクルーにも「艇保護の自己責任」をよく通知しておこう。

### 3.6 落水

ボートホルダーが、落水するリスクも考慮しよう。基本的にライフジャケットを着用させよう(ただし、炎天下では熱中症リスクを高める点にも注意)。ラフコンディションで艇を保持するのはけっこう大変で、うつ伏せになっている姿勢は、船酔いし易く、バランスを失いやすい。

強風下で、ボートホルダー(女子高生)が、艇を持ったまま引きずられ、落水した事例。すぐに救助されたが、それまで PFD もつけずただ浮かんでいた(現在は改善されている)。



ステイクボートから落水したボートホルダー(芦田川, 2003)

## 4 備品のチェックリスト

Check List

- 水筒,  帽子,  防寒・雨具,  PFD,  ホイッスル